

令和7年度授業改善推進プラン（特別支援学級）

武蔵村山市立第二中学校（ E 組 ）

目指す授業		○ 基礎・基本を定着させる授業 ○ 主体的に学ぶ姿勢を育て、幅広く知識・技能を身に付ける意欲を引き出すとともに、思考・判断・表現する力を育てる授業	
教科	① 児童・生徒の実態・課題	② 授業改善の取組	③ 取組結果
国語	○漢字や語彙の定着に課題が見られる。 ○談話から重要な情報を聞き取ることに課題が見られる。 ○自分の考えをもち、表現することに苦手意識をもつ生徒が多い。	○毎授業でワークを活用し、漢字学習を行う。また、短文作成を通して、覚えた漢字をアウトプットする回数を確保する。 ○各学年にあった量で、聞き取り問題を行う回数を確保する。聞き取りのポイントを繰り返し学習し、自分に合った聞き取り方を見付けさせる。 ○「賛成・反対」のように自分の立場を明らかにする学習から始め、自分の考えを表現する機会を確保する。	○漢字の読み問題の正答率は上がったが、語彙の定着には課題が見られる。 ○聞き取り問題を行う時間を確保したことで、情報の聞き取り方が身に付き、重要な情報を聞き取る力が向上した。 ○作品を読んだ感想を書いたり、本文中の筆者の考えに対する自分の意見を発表したりする活動を单元ごとに行ったことで、自分の考えをもち、表現する力の向上が見られた。
算数・数学	○分数や小数などの四則演算に苦手意識をもつ生徒が多い。 ○事象を数学的に表現・解釈するスキルが身に付いていない。	○分数や小数の計算の決まりを定期的に確認する。整数の四則演算から段階的にスモールステップを踏んだ学習内容を設定し、反復練習を行う。 ○問題解決の過程で「なぜそうなるのか」「どのように考えたか」を言語化する場面を設ける。話し合いを通して、他者の考えにふれる機会を確保する。	○計算の決まりを繰り返し確認し、整数から段階的に学習を進めたことで、計算に取り組もうとする姿勢が増え、基本的な問題の正答率も向上してきた。 ○自分の考えを式や言葉を使って表現しようとする姿が増えた。話し合いを通して、様々な考えに触れることができた。 ○根拠を明確にして論理的に説明することや他者の考えの共通点・違いを整理する力の育成に課題がある。